

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 18 日 (2007.10.18)

【公表番号】特表 2003-508434 (P2003-508434A)

【公表日】平成 15 年 3 月 4 日 (2003.3.4)

【出願番号】特願 2001-519902 (P2001-519902)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/192 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/14 (2006.01)

A 6 1 K 47/22 (2006.01)

A 6 1 K 47/32 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/192

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 9/48

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 47/14

A 6 1 K 47/22

A 6 1 K 47/32

A 6 1 K 47/34

A 6 1 P 29/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 31 日 (2007.8.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 液状ソフトゲル充填剤であって下記の組成を含んでなる：

- a) 30 重量% よりも多い液中遊離酸型イブプロフェン、
- b) 約 30 から 60 重量% のポリエチレングリコール、及び
- c) 約 10 から 30 重量% のポリビニルピロリドン。

【請求項 2】 前記イブプロフェンが、少なくとも 35 重量% の量存在する請求項 1 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 3】 前記ポリエチレングリコールの平均分子量が約 200 から約 1,000 である、請求項 1 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 4】 前記ポリビニルピロリドンの平均分子量が約 2,000 から約 54,000 である、請求項 1 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 5】 約 6% までの鼻腔鬱血除去剤、又は約 10% までの抗ヒスタミン剤を更に含む、請求項 1 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 6】 前記イブプロフェンの生物学的利用能を増すように約 10 重量% までの界面活性剤を更に含む、請求項 1 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 7】 前記界面活性剤が、d - トコフェリールのエステル、ポリオキシエチレンキャスターオイル誘導体、及びポリグリコキシル化グリセライドからなる群より選ばれたものである、請求項 6 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 8】 液状ソフトゲル充填剤であって下記の組成を含んでなる：

- a) 30 重量%より多い液中遊離酸型イブプロフェン、
- b) 約 30 から約 60 重量%の、平均分子量約 200 から約 1,000 のポリエチレングリコール、
- c) 約 10 から約 30 重量%の、平均分子量約 2,000 から約 54,000 のポリビニルピロリドン、及び
- d) 前記イブプロフェンの生物学的利用能を増すための、約 1 から約 10 重量%の界面活性剤。

【請求項 9】 前記ポリエチレングリコールの平均分子量が約 600 である、請求項 8 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 10】 前記界面活性剤が、d - トコフェリールのエステル、ポリオキシエチレンキャスターオイル誘導体、及びポリグリコキシル化グリセライドから選ばれたものである、請求項 8 記載のソフトゲル充填剤。

【請求項 11】 液状充填剤を封入した、外皮からなるソフトゲルカプセルであって、該充填剤が下記の組成を含んでなる：

- a) 30 重量%より多い液中遊離酸型イブプロフェン、
- b) 約 30 から約 60 重量%のポリエチレングリコール、及び
- c) 約 10 から約 30 重量%のポリビニルピロリドン。

【請求項 12】 前記イブプロフェンが、前記充填剤の約 35 から 40 重量%の量存在する、請求項 11 記載のソフトゲルカプセル。

【請求項 13】 前記ポリエチレングリコールの平均分子量が約 200 から約 1,000 である、請求項 11 記載のソフトゲルカプセル。

【請求項 14】 前記界面活性剤が、d - トコフェリールのエステル、ポリオキシエチレンキャスターオイル誘導体、及びポリグリコキシル化グリセライドから選ばれたものである、請求項 11 記載のソフトゲルカプセル。

【請求項 15】 前記ポリビニルピロリドンの平均分子量が約 2,000 から約 11,000 である、請求項 11 のソフトゲルカプセル。

【請求項 16】 前記外皮が、約 45 から約 75 重量%のゼラチン、約 20 から約 40 重量%の可塑剤、及び約 5 から約 15 重量%の水を含んでなる、請求項 11 記載のソフトゲルカプセル。

【請求項 17】 約 6%までの鼻腔鬱血除去剤、又は約 10%までの抗ヒスタミン剤を更に含む、請求項 11 記載のソフトゲルカプセル。

【請求項 18】 液状充填剤を封入した、外皮からなるソフトゲルカプセルであって、該充填剤が下記の組成を含んでなる：

- a) 少なくとも 35 重量%の液中遊離酸型イブプロフェン、
- b) 約 30 から約 50 重量%の、平均分子量約 200 から約 1,000 のポリエチレングリコール、
- c) 約 15 から約 30 重量%の、平均分子量約 2,000 から約 11,000 のポリビニルピロリドン、及び
- d) 前記イブプロフェンの生物学的利用能を増すための界面活性剤。

【請求項 19】 前記界面活性剤が、d - トコフェリールのエステル、ポリオキシエチレンキャスターオイル誘導体、及びポリグリコキシル化グリセライドから選ばれたものである、請求項 18 記載のソフトゲルカプセル。

【請求項 20】 前記外皮が、約 45 から約 75 重量%のゼラチン、約 20 から約 40 重量%の可塑剤、及び約 5 から約 15 重量%の水を含んでなる、請求項 18 記載のソフトゲルカプセル。

【請求項 21】 前記外皮可塑剤が、ソルビトール、特殊ソルビトール、マルチトール

ル、或いはそれらの混合物からなる群より選ばれたものである、請求項 20 記載のカプセル。

【請求項 22】 前記カプセル充填物の総重量が 600 mg より少なく、且つ前記イブプロフェンの重量が少なくとも 200 mg である、請求項 18 記載のカプセル。

【請求項 23】 液状ソフトゲル充填剤であって下記の組成：

a) 30 重量%よりも多い液中遊離酸型イブプロフェン、

b) 約 30 から 60 重量%のポリエチレングリコール、及び

c) 約 10 から 30 重量%のポリビニルピロリドンを含んでなり、

該ポリエチレングリコール対ポリビニルピロリドンの比が約 2.5 : 1 未満である、液状ソフトゲル充填剤。

【請求項 24】 前記ポリエチレングリコール対ポリビニルピロリドンの比が約 1.6 : 1 ~ 約 1.8 : 1 である、請求項 23 に記載の液状ソフトゲル充填剤。

【請求項 25】 液状充填剤を封入した、外皮からなるソフトゲルカプセルであって、該充填剤が下記の組成：

a) 30 重量%よりも多い液中遊離酸型イブプロフェン、

b) 約 30 から 60 重量%のポリエチレングリコール、及び

c) 約 10 から 30 重量%のポリビニルピロリドンを含んでなり

該ポリエチレングリコール対ポリビニルピロリドンの比が約 2.5 : 1 未満である、ソフトゲルカプセル。

【請求項 26】 前記ポリエチレングリコール対ポリビニルピロリドンの比が約 1.6 : 1 ~ 約 1.8 : 1 である、請求項 25 に記載のソフトゲルカプセル。